（公財）中央果実協会
No.345

ブラジルの柑橘類事情（オレンジ、オレンジ果汁）修正版

米国農務省GAINレポート　2023年12月20日（2024年2月6日修正）

これは米国農務省海外農業局ブラジリア（ブラジル）農務事務所（OAA）が作成した「柑橘類年次報告書」の修正版（一部省略）を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。「ブラジル年度」等と特記した場合を除き、この報告書の2024/25年度（販売年度）は2025年7月～2026年6月を指し、これは2025/26ブラジル年度に該当します。

概要

これは柑橘類年次報告書を修正するものであり、元の報告書中の生産、消費、輸出に関する当事務所の推計値が更新・修正されている。

2024/25年度のブラジル産オレンジの出荷量は、3億2千万箱と予測され、これは1,300万トンに相当し、当事務所の2023/24年度の推計値（3億箱、すなわち1,230万トン）に比べて5.4%多い。ブラジルの2024/25年度の生産量は、1988年以来最低だった今シーズンからわずかに回復すると予想される。当事務所はまた、現在の収穫期の加工用オレンジの入手困難がやや解消することから、2024/25年度のブラジルのオレンジ果汁（ブリックス値66の冷凍濃縮オレンジ果汁（FCOJ）換算）の製造量を、2023/24年度の製造量の当事務所の推計値（93万トン）に対して8%の増加となる100万トンと予測する。

＜生鮮オレンジ＞

生産需給統計表

次の表は、ブラジルの2023/24、2024/25の各年度（7月～翌年6月）における生鮮オレンジの生産、供給、流通の改訂データと、2025/26年度の予測を示している。上記のブラジルの年度は、それぞれ米国の2022/23、2023/24及び2024/25年度に相当する。（翻訳に当たり、表に合わせて文章を整理しました。）

表1　ブラジルの生鮮オレンジの生産需給統計

オレンジ（生鮮） 販売年度の始まり ブラジル	2022/2023 2023 年 7 月 農務省公式	 今回推計値	2023/2024 2024 年 7 月 農務省公式	 今回推計値	2024/2025 2025 年 7 月 今回推計値
栽培面積（ヘクタール）	600,000	600,000	590,000	590,000	590,000
収穫面積（ヘクタール）	575,000	575,000	570,000	570,000	570,000
結果樹本数（千本）	198,070	198,070	197,194	197,194	200,000
未結果樹本数（千本）	39,302	39,302	41,176	41,176	42,000
果樹本数合計（千本）	237,372	237,372	238,370	238,370	242,000
生産量（千トン）	15,469	15,469	12,300	12,300	13,000
輸入量（千トン）	40	40	32	32	40
総供給量（千トン）	15,509	15,509	12,332	12,338	13,040
輸出量（千トン）	0	0	0	0	0
生鮮国内消費量（千トン）	4,500	4,500	2594	2,600	2,500
加工仕向量（千トン）	11,009	11,009	9,738	9,738	10,540
総仕向量（千トン）	15,509	15,509	12,332	12,338	13,040

公式データは、PSD Online Advanced Query からアクセスできる。
注: ブラジルの販売年度と米国の販売年度の間には1年のずれがある。例えば、2024/25ブラジル販売年度は、2023/24米国販売年度に相当する。データの継続性を確保するため、本レポートでは2025/26ブラジル販売年度を2024/25年度と表記する。

総論

当事務所は、2024/25年度（7月～6月）のブラジル産オレンジの総出荷量を3億2千万箱（40.8kg/箱（以下同じ））、すなわち1,300万トンと予測する。これは2023/24年度に関する当事務所の推定値（3億箱、すなわち1,230万トン）と比較して5.4%の増加となる。ブラジルは1988年以来最低だった今シーズンの大幅な減少にも拘わらず、次年度にはやや回復すると予想される。ラニーニャ現象により降雨が平常化し、気温が下がると予想されるため、次の収穫（2024/25年度）は、今シーズン（2023/24年度）からの改善が見られるものと予想される。

2023/24年度のブラジルのオレンジ収穫量は、過去35年間で最少となる見込みである。当事務所の情報提供者らは、オレンジがサンパウロ州の歴史上最も早い未熟な開花に直面したことを肯定した。雨が降り始

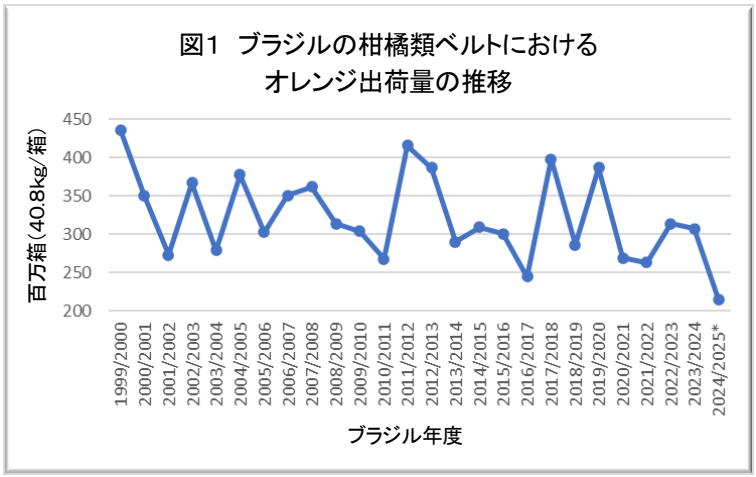
めた後、非常に暑く乾燥した夏があり、乾燥した冬が続いた。このため、9月の開花による果実はうまく肥大しなかった。複数回の開花があったが、品質が低かったため、収穫量は予想をはるかに下回った。サンパウロ州がこのような干ばつに直面したのは、2014年以来である。さらに、理想より平均2～3℃高い気温も収穫量に悪影響を与えた。しっかりした灌漑システムがない園地では、生産に大きな影響が出た。灌漑された地域では影響が少なかったが、今シーズンは井戸水の減少により灌漑された地域でも苦戦した。

乾燥した天候により、サンパウロ州の北西部とミナスジェライス州西部の「トリアングロミネイロ」(ミナスジェライス州の三角地帯)から成る柑橘類ベルト(柑橘類地帯)では、5シーズン連続で果実の生産量が減少した。当事務所の情報提供者らによると、柑橘類ベルトではより多くの灌漑が必要である。

2024年の10月以降、雨はより定期的に降り、開花が改善された。オレンジの木は、収穫ごとに生産量が変動する多年生植物である。言い換えれば、収穫量が少ない年の翌年は通常収穫量が回復し、その逆もまた然りである。このことにより、当事務所は2024/25年度の生産の回復を予想している。

柑橘類栽培保護財団(Fundecitrus)が2024年12月に発表した最新データによると、2023/24年度の柑橘類ベルトの生産量は、2億2,314万箱、すなわち合計880万トンと推定される。これは前年(3億700万箱)に比べて8,400万箱の大幅な減少であり、342万トンの減少に相当する。同財団は、トリアングロミネイロ地域の生産量を1,479万箱、サンパウロ州の生産量を2億830万箱と推定している。

ブラジルでは、オレンジ生産量の約20%が生鮮果実として市場に出回り、80%が果汁の製造に使用される。ブラジルで生産される主なオレンジ品種は、ハムリン、ウェスティン、ルビー、バレンシアアメリカーナ、セレタ、パイナップル、BRSアルボラーダ、ペラリオ(ペアオレンジ)、バレンシア、「フォリャムルチャ」バレンシア、ナタールである。ブラジルの柑橘類産業は高度に工業化されている。



出典: Fundecitrusのデータにより当事務所が作図
2024/2025*(ブラジル年度)は予測値

上のグラフ(図1)は、ブラジルの柑橘類ベルトにおけるオレンジ生産量の推移を示しており、25年間にわたる大きな変動を映し出している。生産量は、1999/2000ブラジル年度の4億5千万箱(1,836万トン)から、前年度(2022/23ブラジル年度)から27.3%の減少が予測される2023/24ブラジル年度の推定2億2,314万箱(880万トン)までの開きがある。

柑橘類ベルトは収穫量の多い時、特に2011/12、2012/13、2017/18、2019/20各ブラジル年度においては平均4億箱(1,632万トン)を出荷した。現在のFundecitrusの予測は、ピークから50%減少し、1988/89ブラジル年度の2億1,400万箱以来の低さである。Fundecitrusによると、現在の減少の主な理由は依然として暑く乾燥した天候のため、果実が例年より少なく小さいことである。2024年5月の降雨量は予想よりも悪く(31%少ない)、秋と冬の高い気温により蒸発散が増え、果実の成熟と収穫のペースが加速した。

当事務所は、2024/25年度のオレンジの果重を、天候回復のため当事務所の2023/24年度の推計値で

ある160グラムよりも1.25%重い162グラムと予測する。Fundecitrusは、2023/24年度に40.8kg入りの箱を満たすには261個の果実が必要になると予測しており、これは2024年5月の推定値よりも23個多く、2024年9月の推定値と比較すると3個少ない。Fundecitrusの2023/24年度の予想果重は平均156グラムで、当初の予測である169グラムを下回っている。もし、予想されている果重が公式数値になると、2023/24年度の平均果重は過去10年の平均（163グラム）よりも軽くなる。

生産

ブラジルの果樹園で集められたオレンジの袋

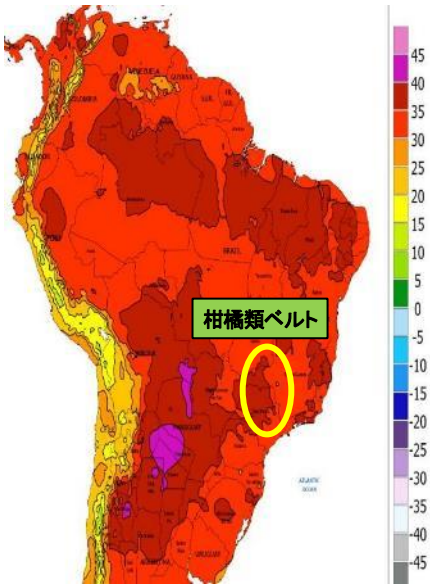
ブラジルは世界最大のオレンジ生産国の一つである。2024年11月のビジネス誌「Exame」によると、ブラジルは世界のオレンジ生産量の34%と世界のオレンジ果汁市場の75%を占めている。

ブラジル地理統計院（IBGE）のデータによると、柑橘類ベルトは2023年現在、ブラジルのオレンジ果樹園面積の約84%を占めている。

柑橘類ベルトは、カンキツグリーニング病（黄龍病＝HLB）の症状が見られる植物の発生率がブラジルで最も高い地域である。Fundecitrusが発表したデータによると、その深刻度は様々であるものの、柑橘類ベルトのオレンジの木の44%がカンキツグリーニング病の影響を受けている。

気候予測センター（CPC）は、2024年11月から2025年1月までにラニーニャ現象が発生する確率は75%で、中立的な気象パターンとなる確率が25%であると推定している。

図2　ブラジルの極端な最高気温（℃）
2024年11月24日～30日



出典: NOAA/CPC

左の図2の地図は、2024年11月24日～30日のブラジルの高温の様子を示している。柑橘類ベルトの赤い影の部分は、華氏86～104度（摂氏30～40度）の地域を示している。

エルニーニョ現象の影響で、乾季は予想よりも早く始まり、例年よりも深刻であった。その結果、今シーズン（2023/24年度）は河川の水位が低かった。

ブラジル国立自然災害監視警報センターは2024年8月に、柑橘類ベルトの市町村の6%が深刻な、76%が中程度の、18%が軽度の干ばつ状態にあることを指摘した。

ラニーニャ現象は、降雨と気温を変え、ブラジルを含む地球上の様々な地域に通常の気象条件を取り戻すと予想される。

栽培面積

当事務所はIBGEが発表したオレンジの公式数値に基づき、2024/25年度のオレンジの栽培面積を、前年度の推定値と同じ59万ヘクタールと予測する。マットグロッソドスル州、ミナスジェライス州、バイーア州等での栽培面積の拡大が、柑橘類ベルトでの面積の減少を埋合せるものと予想される。

サンパウロ州は、植栽本数と果樹の登録データをとりまとめている唯一の州である。2024年12月に発表されたFundecitrusの作物データによると、サンパウロ州の2023/24年度の結果樹本数は2024年5月の推定値と同じ合計1億6,854万本で、柑橘類ベルトの栽培面積は40万6,266ヘクタールと推定される。

生産者はカンキツグリーニング病の発生率の低い地域を求めるため、一部の生産は柑橘類ベルトの区域を超えて拡大している。バイーア州はブラジルで4番目に大きなオレンジ生産州であり、IBGEによると2023年の生産量は61万トンである。バイーア州が位置する北東部では、年間を通じて暑い気候と不規則な降雨のため、オレンジの出荷は8カ月から10カ月にわたって分散している。

下図3は、IBGE（2023）のデータに基づく主な柑橘類産地を示す。それによると、柑橘類ベルトのサンパウロ州が77.45%、ミナスジェライス州が6.39%を占め、その他パラナ州が4.17%、バイーア州が3.46%、リオグランデドスル州が1.88%を占めている。

図3 ブラジルの主な柑橘類産地

出典：IBGE 2023（2024年9月12日更新）、当事務所による作図

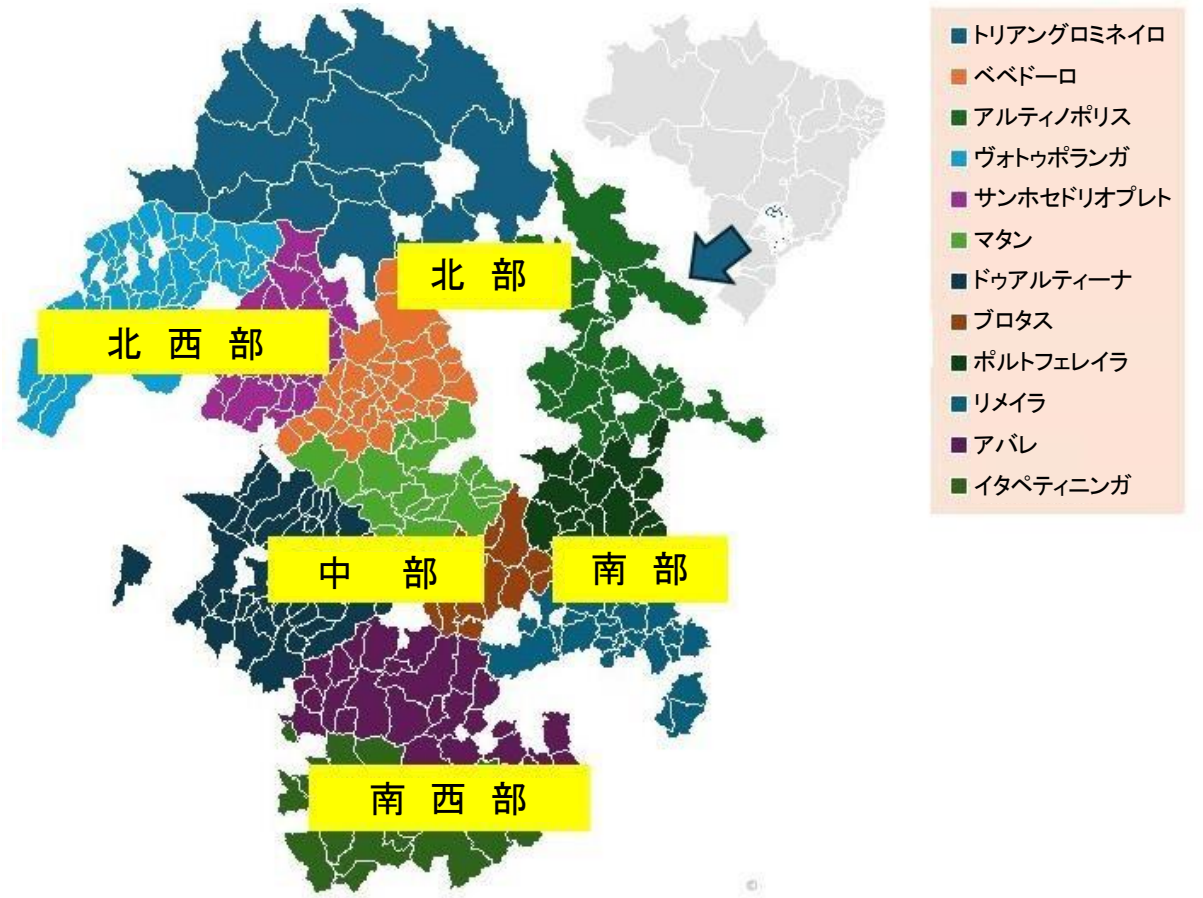
ブラジルの柑橘類ベルトは、北部、北西部、中部、南部、南西部の5つの地域で構成されている。ブラジルには約5千のオレンジ農場があり、そのほとんどが生産性の高い大規模生産者である。病虫害のほか、生産コストの高さと労働力の不足により、多くの小規模生産者がこの業界から遠ざかった。

当事務所の情報提供者らが2023年に報告したところによれば、1つの柑橘類農場への投資には約4千万レアル（744万米ドル）の費用がかかる。

図4の地図は、柑橘類ベルトの5つの地域区分（北部、北西部、中部、南部、南西部）それぞれのオレンジ栽培地域を示している。オレンジの栽培が最も集中しているのは6万1,031ヘクタールのドゥアルティーナ地域と6万566ヘクタールのアバレ地域である。

一方、栽培面積が最小のブロタス地域は1万13ヘクタールである。トリアングロミネイロ地域には2万9,296ヘクタールがあり、地図上では北部に紺色で示されている。果樹園の密度は、同じ地域の中でも非常に不均一なことがある。

図4　ブラジルの柑橘類ベルト（地域区分）



出典：Fundecitrusのデータにより当事務所が作図

当事務所の情報提供者らは、現在の灌漑施設が不十分であるため、実施中のプロジェクトの中で灌漑への投資がブラジル北部の農業戦略の1つであることを明らかにした。

オレンジの生産量は、ミナスジェライス州とマットグロッソドスル州で増加している。マットグロッソドスル州での柑橘類栽培の拡大を促進するため、地元州政府は2024年12月3日に政令第16527号を公布し、加工用オレンジにかかる複数の州にまたがる事業の税負担を軽減した。

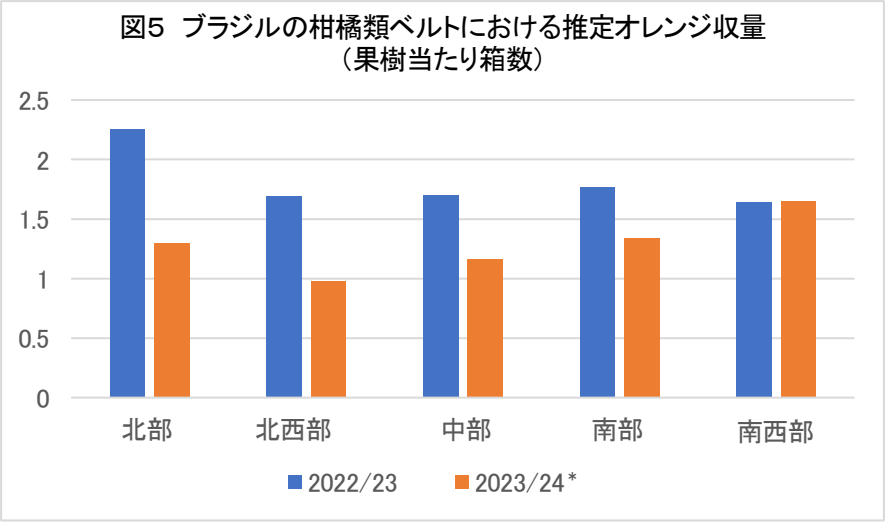
当事務所の情報提供者らは、今後4～5年以内に、柑橘類ベルトの外での柑橘類の生産拡大の一環として、4万ヘクタールの増加があると予想している。マットグロッソドスル州の通信社は2024年11月に、ある企業が同州で5億レアル（8,300万米ドル）のプロジェクトに投資し、灌漑施設を備えたオレンジ農場を整備し、可能であれば果実を搾汁する工場を建設することを明らかにした。マットグロッソドスル州の灌漑の取組みは、柑橘類ベルトにおける生産量の減少を埋合せる可能性がある。

当事務所の情報提供者らによると、柑橘類農場の新設に伴う課題は、電力の引き込みとインフラへの投資等である。マットグロッソ州（マットグロッソ州はマットグロッソドスル州とは別の州）では、柑橘類の栽培面積は2023年時点では485ヘクタールであったが、2025年までに2万5千ヘクタールに達すると見込まれている。

果樹台帳と収量

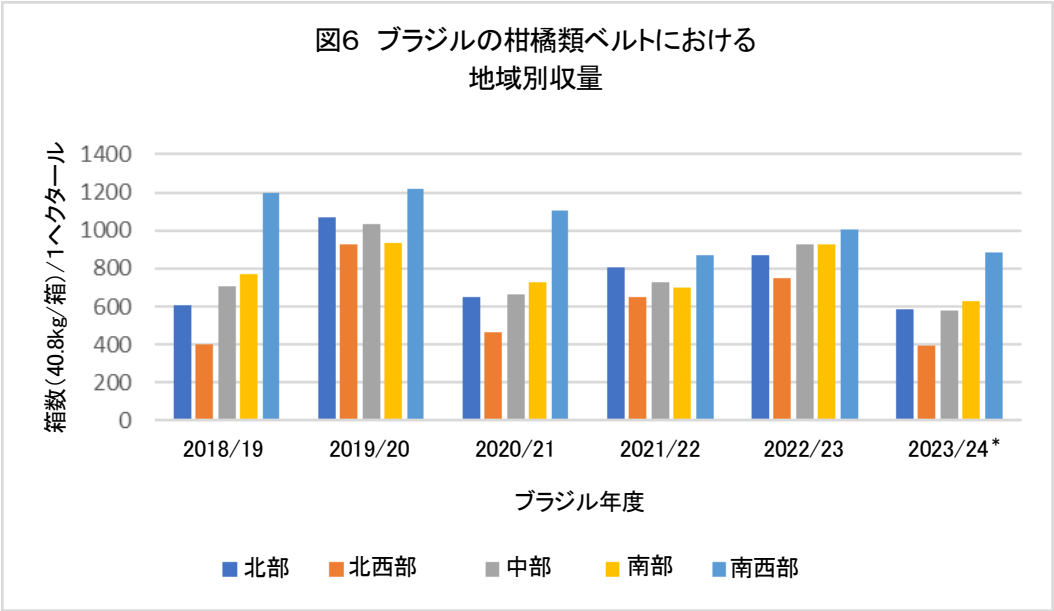
当事務所は、2024/25年度のブラジルのオレンジ果樹登録総本数を、2023/24年度の推定総本数2億3,870万本と比較して1.36％多い2億4,200万本、そのうち2億本が結果樹、4,200万本が未結果樹であると予測する。

2024/25年度の収量について当事務所は、課題のある今シーズン(2023/24年度)の生産量からの回復を考慮し、2023/24年度の推計値(果樹1本当たり1.4箱)より5%多い、果樹1本当たり1.5箱と予測する。



出典: Fundecitrus 当事務所が作図
＊2023/24 は Fundecitrus による推計値

上の図5のグラフは柑橘類ベルトについて、前回の収量とFundecitrusによる今回(2023/24年度)の予測収量を示しており、今回は平均1.32箱となっている(前年の予測は1.81箱)。南西部は1果樹当たり1.65箱で、最も生産性の高い地域として際立っているものの前年(の全体平均)に比べて8%少なく、最も生産性が低い地域は北西部で、1果樹当たり0.98箱で前年(同)の半分である。



出典: Fundecitrus 当事務所が作図
*推計値

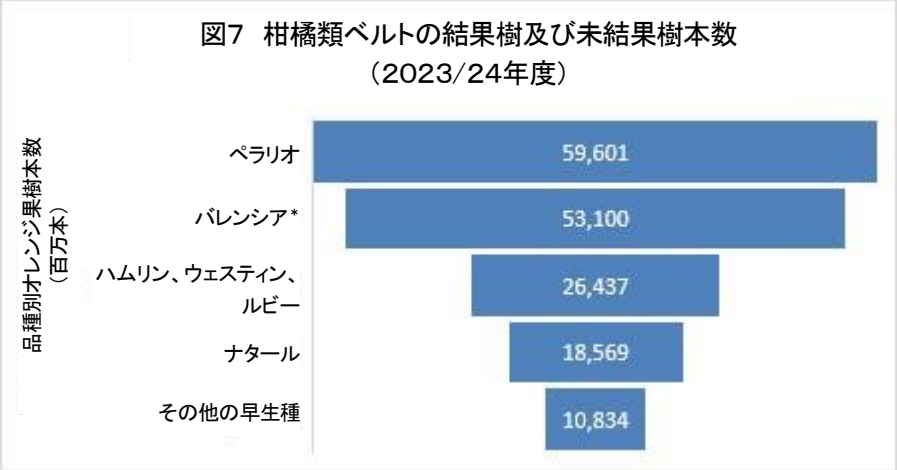
上の図6のグラフは、ブラジルの柑橘類ベルト(サンパウロ州とトリアングロミネイロ地域)における1ヘクタール当たりの生産性を、過去5シーズン及び現在の2023/24年度(2024/25ブラジル年度)のFundecitrusの推計値について、地域別に表したものである。

このグラフは、南西部の生産性が14.4%低下した(Fundecitrusの2023/24年度の推計値と前年度の比較)にもかかわらず、1ヘクタール当たり883箱と際立っていることを強調している。最も生産性の低い地域は北西部で、1ヘクタール当たり392箱と前回の収穫量を358箱下回ると予測される。南部、北部、中部地域で

は、それぞれ1ヘクタール当たり627箱、588箱及び575箱が生産されると予測される。

当事務所の情報提供者らによると、柑橘類ベルトの果樹の生産寿命は15年である。このため、15年で全てが更新されるよう、果樹の7%を毎年改植する必要がある。

下の図7は、どの品種が柑橘類ベルトで最も多く栽培されているかを示している



バレンシア*はバレンシア及び「フォリャムルチャ」バレンシア
その他の早生品種はバレンシアアメリカーナ、セレタ、パイナップル及びアルボラーダ
出典：Fundecitrus 当事務所が作図

Fundecitrusは、2023/24年度の柑橘類ベルトの果樹本数の推計値を1,685億4,267万本に据え置いた。ペラリオ品種は柑橘類ベルトの果樹本数の35%を占めると見られ、2023/24年度の前回の予想から1ポイント減少する。バレンシアは31%、ハムリン、ウェスティン、ルビーはそれぞれ16%を占めると推定される。

ブラジルの果樹園のナタールオレンジの木

柑橘類の生産者は、収量を最適化し生産量を高めるため様々な戦略を採用している。一般的な方法の1つは、果樹園の周縁部に樹勢の弱い果樹を植えることである。これにより害虫の密度を管理できる可能性が有るが、昆虫が樹勢の強い果樹を求めて果樹園の内部に侵入し、意図した成果を得られないこともあるため、常に効果的であるとは限らない。限界はあるものの、これは、柑橘類ベルトの様々な地域の生産者が採用してきた戦略である。

収穫に関しては、生産者は収穫の際、特に高さ4メートルにも成長する可能性のある樹齢20年の古い果樹から果実を摘むために、左の写真に示すようなはしごの使用に替わる方法を探している。手作業による収穫を容易にするために、柑橘類生産者は果樹の樹体を小さくしたり、技術を改善したりしている。

2024年末に十分な降雨量があったため、2024年後半から2025年前半にかけて果実の出荷量が増加すると予想される。

バレンシア、ナタール等の晩生のオレンジは果実がフルサイズに肥大する可能性があるが、他のオレンジでは前作のサイズに達しない可能性がある。

カンキツグリーニング病

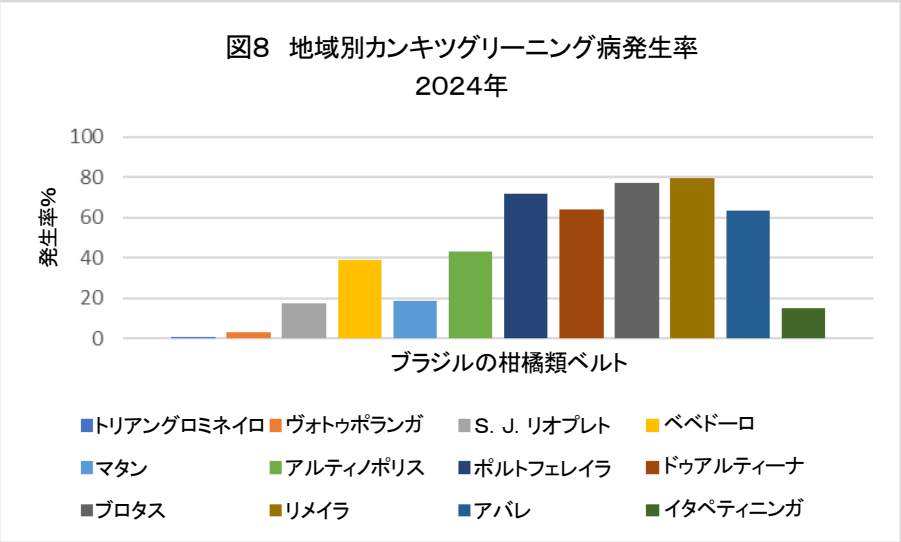
黄龍病（HLB）すなわちカンキツグリーニング病は、罹患性の植物内で急速に増殖し高い個体数に達する細菌による病害である。影響は果実の減少、小玉化、奇形、苦味である。未熟果が落果し、最終的には樹勢が弱まり、他の病害による被害を受けやすくなる。ブラジルでは、柑橘類ベルトにおいて被害がより顕著である。Fundecitrusによると、2024年には、サンパウロ州とトリアングロミネイロ地域南東部の果樹園のカンキツグリーニング病発症率が44.35%に達した。カンキツグリーニング病を撲滅する上での主な課題の1つは、媒介昆虫が変異を起こし、それを駆除するための有効成分に対して免疫を持つようになることである。

当事務所の情報提供者らは、カリオフィレンと呼ばれる天然の忌避剤、カオリンと呼ばれる非化学的技術、活力のある台木の使用等、カンキツグリーニング病と戦うための新しい化学物質や農法が開発されていることを確認している。

2024年9月のFundecitrusのデータによると、柑橘類ベルトにおけるカンキツグリーニング病の平均発生率は44.35%で、これは約9,036万本の果樹に相当する。この割合は、2023年の推定38.06%の1.165倍である。再度推定された発生率は、2023年の42.55%に対し、2024年には48.64%で、1.143倍であった。

Fundecitrusによると、短期的には、カンキツグリーニング病の発生率は増加すると予想されるが、従来に比べて増加速度が遅くなる可能性がある。これは主に、2024年のミカンキジラミの個体数が前年に比べて減少したことと、病害のリスクが低い柑橘類ベルトの周辺地域に新しい果樹園が設置されたためである。これらの地域では、この病害がブラジルで初めて発見されて以来、過去20年間に蓄積された知識と経験を活かし、カンキツグリーニング病対策は予防を優先する。

中長期的には、柑橘類ベルトの拡大だけでなく、総合的病害虫管理や最新の技術を用いた育種等、より効果的な解決策の開発・実施により、カンキツグリーニング病の発生率は減少することが予想される。現在進行中の研究は引き続き、ミカンキジラミを管理・駆除し、感染した果樹の損失を軽減するための、より効率的で持続可能な方法を模索している。さらに、バイオテクノロジーを駆使したプロジェクトは、革新的な解決策を推進し、遺伝子編集技術を応用して柑橘類の防御力を強化することに焦点を当てている。これらのアプローチは、柑橘類生産をカンキツグリーニング病から保護するための多面的な戦略を意味している。



出典：Fundecitrusのデータにより当事務所が作図

上のグラフ（図8）に反映されているFundecitrusの疾病調査では、柑橘類ベルトでカンキツグリーニング病の発生率が最も高い地域は、リメイラ（発生率が2023年の73.87%から2024年には79.38%に上昇）、ブロタス（68.53%から77.06%）、ポルトフェレイラ（59.65%から71.77%）、ドゥアルティーナ（55.66%から63.93%）及びアバレ（54.79%から63.41%）であることが示されている。

消費

当事務所は、2024/25年度のブラジルのオレンジ消費量を、当事務所の2023/24年度の推計値（260万トン）と比較して3.8%減となる250万トンと予測する。国内需要を満たすため、輸入が増加する。

なお、国内市場向けの「非濃縮（NFC）」オレンジ果汁の製造のために加工業者に仕向けられる果実は、生鮮オレンジの消費量としてではなく、「NFC製造のための加工業者への納入」として計上される。生鮮国内消費量の推計値は、オレンジ生産量の推計値と加工仕向量（国内消費用及び輸出用に製造される冷凍濃縮オレンジ果汁（FCOJ）及びNFCの原料として加工業者に出荷されたオレンジの量）の差として計算される。

目に見える消費量を捉えたオレンジの消費に関する公式データはない。当事務所の情報提供者らによると、生鮮オレンジの消費量の減少は、価格がこれまでに観測された中で最高の水準に達したためである。

貿易

長年にわたり、ブラジルの生鮮オレンジの貿易量は少ない。（輸出量は実質的にゼロ）

＜オレンジ果汁＞

生産需給統計表

次の表は、2023/24、2024/25各ブラジル年度におけるオレンジ果汁の製造、供給、流通の改訂データと、2025/26ブラジル年度の最新の予測を示している。上記のブラジル年度は、それぞれ2022/23、2023/24及び2024/25の各米国年度に相当する。

この表には、ブリックス値66の冷凍濃縮オレンジ果汁（FCOJ）に換算された輸出用の非濃縮果汁（NFC）が含まれている。

換算係数: ブリックス値66のFCOJの1トンは、ブリックス値11.6のNFC5.4～5.6トンに相当する。

表2 ブラジルのオレンジ果汁の生産需給統計

オレンジ果汁	2022/2023		2023/2024		2024/2025
販売年度の始まり	2023 年 7 月		2024 年 7 月		2025 年 7 月
ブラジル	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	今回推計値
原料果実の加工仕向量（トン）	11,009,000	11,009,000	9,738,000	9,738,000	10,540,000
期初在庫量（トン）	9,000	9,000	8,170	8,170	4,000
製造量（トン）	1,080,337	1,080,337	930,000	930,000	1,011,840
輸入量（トン）	0	0	0	0	0
総供給量（トン）	1,089,337	1,089,337	938,170	938,170	1,015,840
輸出量（トン）	1,006,167	1,006,167	874,170	874,170	953,840
国内消費量（トン）	75,000	75,000	60,000	60,000	58,000
期末在庫（トン）	8,170	8,170	4,000	4,000	4,000
総仕向量（トン）	1,089,337	1,089,337	938,170	938,170	1,015,840

*注: ブラジルの販売年度と米国の販売年度の間には1年のずれがある。例えば、2024/25ブラジル販売年度は2023/24米国販売年度に相当する。データの継続性を確保するため、本レポートでは2025/26ブラジル販売年度を2024/25年度と表記する。

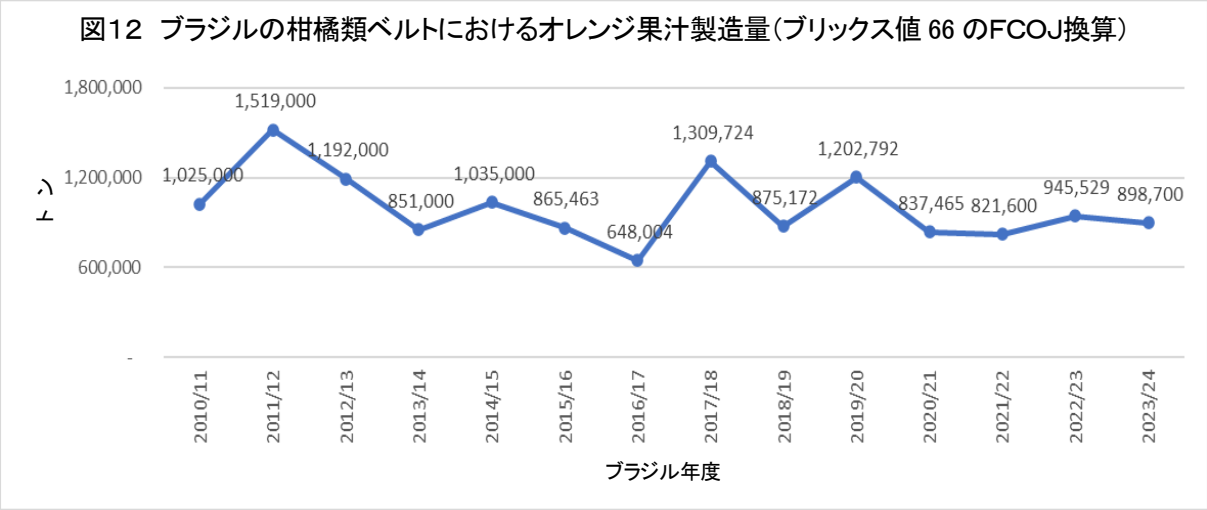
製造

当事務所は、天候の回復とカンキツグリーニング病の抑制の改善を見込み、2024/25年度のブラジルのオレンジ果汁製造量（ブリックス値66のFCOJ換算）を、当事務所の2023/24年度の推計値（93万トン）より8%多い100万トンと予測する。今年度（2023/24年度）の収穫では、干ばつ、極端な高温、及びカンキツグリーニング病の発生の増加によって、加工用果実の入手が難しくなった。

産業的な加工では、2種類の果汁が製造される。1つ目は濃縮冷凍果汁（FCOJ）で、蒸発プロセスを経て体積が6分の1になり、糖度の尺度であるブリックス値が66に達する。2番目のタイプは非濃縮果汁で、低温殺菌のみを経てブリックス値12の天然の濃度で輸出される。

オレンジ果汁製造業はサンパウロ州に集中しており、ミナスジェライス州がそれに続く。果汁のほとんどがCitrusBRの会員であるシトロスコ社、クトラーレ社及びルイドレフュス社によって製造されている。2024年の干ばつの間、果汁業界は早期の収穫を余儀なくされた。その結果、オレンジは小さく、理想的なブレンドを実現するためにはより多くの果実が必要であった。

ブリックス値66に標準化された濃縮果汁は、加工業者によって水分と香りを追加される。FCOJを1トン製造するごとに、6トンの全果汁が必要である。



出典: CitrusBRのデータにより当事務所が作図

上のグラフ（図12）は、ブラジルの柑橘類ベルトにおけるFCOJ製造量（ブリックス値66換算）の推移を示している。過去10年の間に2010/11年度（2011/12ブラジル年度）の約160万トンのピークに達したが、2021/22年度（2022/23ブラジル年度）から2022/23年度（2023/24ブラジル年度）にかけては5%減少した。

消費

当事務所は、2024/25年度の国内のオレンジ果汁消費量（ブリックス値66のFCOJ換算）を、価格の上昇により2023/24年度の推計値（6万トン）よりも3.3%少ない5万8千トンと予測する。

オレンジの不足により、果汁業界はミックス風味の果汁を発売するようになった。オレンジの入手の難しさと価格の上昇が相まって、企業はマンゴー果汁とオレンジ果汁を混合して最終消費者に混合果汁として販売するなど、2つ以上の果実の組み合わせを品揃えに組み込むようになった。他の企業では、ビジネス雑誌「Exame」が注目しているように、水を加えてネクターにしたり、ボトルのサイズを1リットルから700ミリリットルに縮小したりしている。アグリビジネス誌「Revista Globo Rural」によると、一部の企業は従来はオレンジ果汁のみだった飲料にリンゴ果汁を加え始めた。

柑橘類セクターに迫っている脅威の1つは、世界的なオレンジ果汁の消費量の減少である。国際果実野菜果汁協会（IFU）によると、ヨーロッパではボトル入り果汁の価格上昇が消費者に転嫁されたことを反映し、オレンジ果汁の2023年の消費量が15～20%減少した。当事務所の情報提供者らによると、FCJ（冷凍濃縮果汁）の需要は約25%減少し、NFCの需要はわずかに増加した。

柑橘類関係者にとって現在懸念されるのは、消費者基盤の先細りであり、長期的には他の代替品への切り替えにつながる可能性がある。この消費量の減少は、オレンジ果汁の幅広い消費者基盤を脅かしている。現在、オレンジ果汁の最大の競争相手は、ネクター等の希釈オレンジ果汁である。

ブラジルでは、NFCの消費量が前回の収穫以来大幅に増加しており、一部の大企業は、現在の消費者の好みに合わせながら、需要を満たすために生産を増やしている。NFCはより劣化しやすく、より困難でコストのかかる物流を必要とする。NFCの賞味期限は35日間であるが、他のフレーバーと混ぜると最大45日まで

延長できる。対照的に、濃縮果汁は賞味期限が2年で、ブレンドすることができる。さらに、生鮮果汁は、その風味の保証を自然に頼っているが、輸送中に味が失われないようにする技術にも依存している。

Globo Rural 誌の分析によると、果汁ブランドやプライベートブランドは、2025年初頭に先進国市場で価格を引き上げることが必要となり、その結果、消費量がさらに減少する可能性がある。

なお、オレンジ果汁の消費量には、NFC消費量をFCOJ相当に換算したものが含まれている。

貿易

ブラジルでは、オレンジ果汁は濃縮果汁と非濃縮果汁に加工され、世界中に流通している。ブラジルは世界最大のオレンジ果汁輸出国であり、世界で販売されているオレンジ果汁の75%を占めている。オレンジジュースの10杯に7杯はブラジルで製造されたものである。

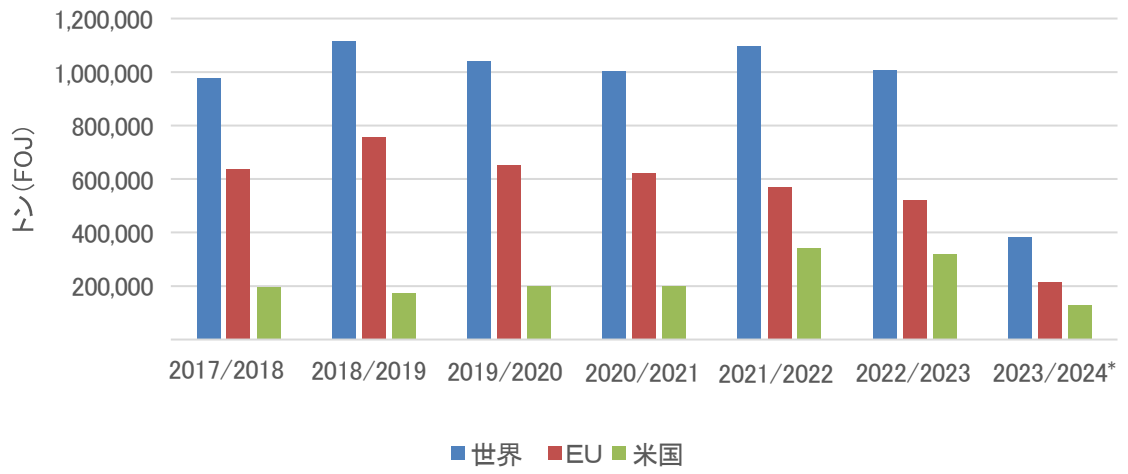
最大の輸出市場は欧州連合(EU)で、米国がそれに続く。これらの市場ではオレンジ果汁の消費量がわずかに減少しているが、供給はさらに速いペースで減少しており、これはブラジルの果汁工場の在庫が少なく、次の収穫に向けてカンキツグリーニング病が増えると予測されているためである。一方、軟調な見通しに対抗するため、ブラジルは最近、オレンジパルプ(果実繊維)等他のオレンジ製品を、特にアジア市場に輸出しようとしている。

輸出

当事務所は、2024/25年度のブラジルの輸出量(ブリックス値66のFCOJ換算)を、当事務所の前年の推計値(87万4,170トン)に比べ8.5%多い95万3,840トンと予測する。これは、生産量の増加に繋がる天候の回復見込みによるものである。2023/24年度については、ブラジルは2024年7月から10月までの期間に30万5,898トンのFCOJを世界に輸出し、そのうち9万2,660トンが米国に、7万6,912トンがEUに輸出された。

2024年の柑橘類栽培の収益は、オレンジ果汁の抑制的な供給、価格の上昇、及び海外の需要により増加した。2023/24年度の第1四半期の収穫に該当する2024年7月から9月までの期間のオレンジ果汁の輸出額は、合計8億5,040万米ドルであった。これは輸出額が5億9,370万米ドルで終了した前年同期と比較して43.23%の増加となる。一方、輸出量(ブリックス値66のFCOJ換算)は前年比で27%減少した。

図13 ブラジルのオレンジ果汁輸出量(主要輸出先)



出典: TDM 当事務所が作図
FOJ は、冷凍濃縮オレンジ果汁(ブリックス値66)への換算を示す
2023/24*年度: 2024年7月～2024年11月

ブラジルのオレンジ果汁の主要市場は引き続きヨーロッパであり、2024年7月から9月までの出荷量は12万1,502トンで、2023年の同時期の17万825トンから30%減少した。オレンジ果汁の世界への総輸出額は

5億1,120万米ドルで、前シーズン第1四半期の3億5,940万米ドルから42.51%増加した。米国への出荷量は、2022/23年度の同時期に輸出された8万3,667トンに対し、19%減の6万7,323トンとなった。

Exame誌によると、果汁の供給を保証し、輸出を維持するために、一部の業者、特にサンパウロ州（2023年のオレンジ生産量が2.22%減少）の業者は、果汁に加工するためバイーア州からオレンジを購入した。

輸入

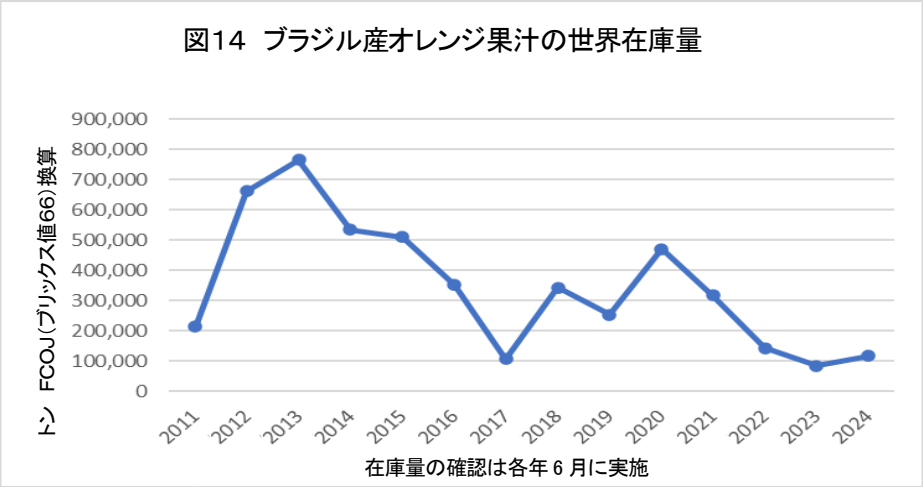
ブラジルはオレンジ果汁を輸入していない。

在庫

当事務所は、2024/25年度のオレンジ果汁（ブリックス値66換算）の期末在庫量を、当事務所の情報提供者らの在庫量は低位に留まるとの情報に基づき、昨年の推計値と同じ4千トンと予測する。在庫量には、ブラジル国内のオレンジ果汁施設（加工場、港湾ターミナル等）の貯蔵タンク内の在庫のみが含まれる。当事務所の情報提供者らによると、オレンジ果汁の在庫は需要に応じて放出される。

CitrusBRの世界在庫量には、ブラジル国内の加工場や港湾ターミナルの貯蔵タンクにあるオレンジ果汁と海外（世界中の船舶や港湾施設）の在庫が含まれる。10年前には、オレンジ果汁の在庫は100万トンを超えていた。

業界誌「Hortifruti Magazine」によると、入庫量が少なく、2023/24年度の製造量が限られているため、来シーズンの果汁在庫の回復は難しい可能性が高い。



出典：CitrusBRのデータを使用して当事務所が作図

上の図に示すとおり、2024年6月30日に確認されたCitrusBR会員企業が保有するオレンジ果汁の世界在庫量（FCOJ換算）は、前年同期の8万4,745トンから37.7%回復し、合計11万6,710トンとなったが、これは史上3番目に低い値であった。

CitrusBRによると、前シーズンと比較して3万1,900トン回復したものの、現在の在庫水準は依然として低い。このセクターは、過去30年間で最小の収穫期を迎えており、シーズンを通して供給の混乱が起こる可能がある。

2023/24年度の需給予測を考慮すると、在庫量はもう1年間は歴史的な低水準にとどまると予想され、これにより2025年前半の国際価格は高水準で推移すると予想される。